

蒲生干潟の植物③1

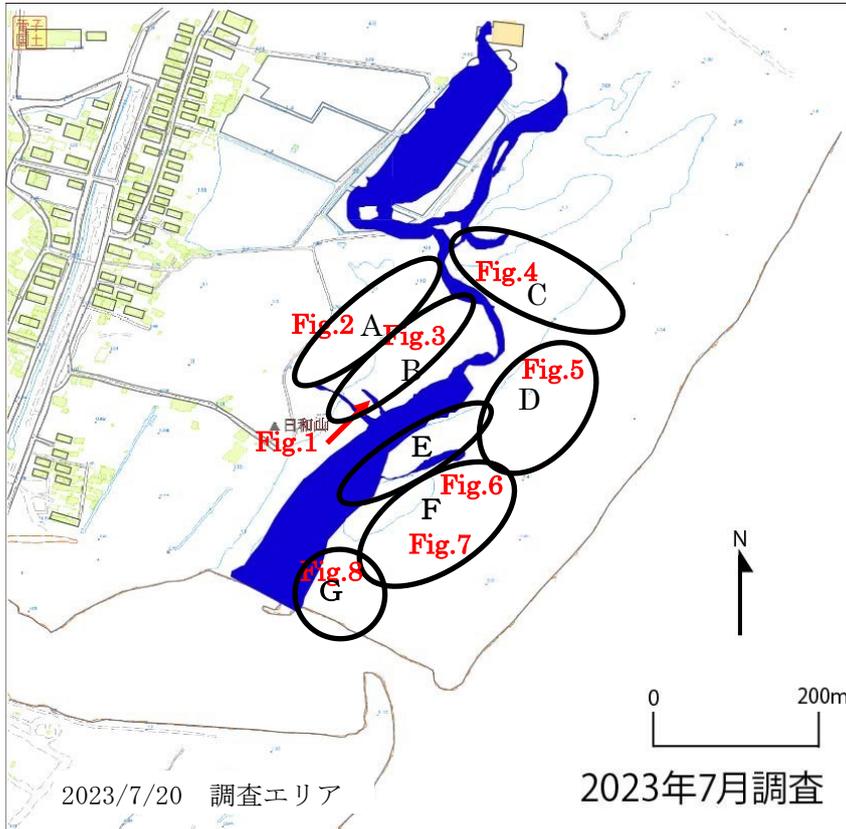


Fig.1 エリアBを南西側から撮影

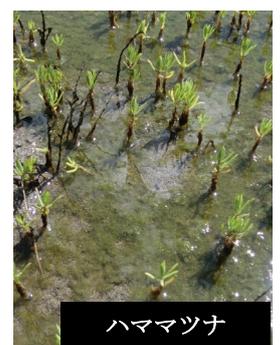


Fig.2 エリアAで撮影

Fig.3 エリアBで撮影

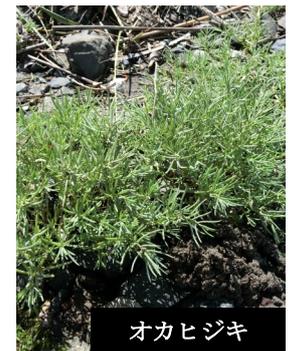


Fig.4 エリアCで撮影

Fig.5 エリアDで撮影

Fig.6 エリアFで撮影

Fig.7 エリアFで撮影

Fig.8 エリアGで撮影

調査日時：2023年7月20日（木）9:20～11:00，天気：晴れ

干潮に向かって水が引いていく時間帯であった。定点観測では、ハマツナの緑一色となっていた（Fig.1）。雨の影響が浸水しているエリアが非常に多く、根元に藻が発生しているのが見られた（Fig.3）。エリアAのヨシは、順調に生育し、大きいもので2mほどにまで成長した個体もあった。エリアAのヨシは、エリアC～Fのヨシに比べて成長が著しく環境が安定していると思われる（Fig.2）。エリアCのシオクグは、先月まで見られていた穂はなくなり、葉の先端が少し色づき始めていた（Fig.4）。エリアD～Fにかけて30cmほどの小さなイタチハギの個体が点在して複数見られた。エリアFの一部だけであったものが広範囲に見られるようになってきている（Fig.5）。エリアFでは、4本目のマツが新たに確認された。現時点では30cmほどまだ小さいが今後の成長が期待される。他の3本は順調に生育し、高さが120～130cmほどにまで成長している（Fig.6）。また、エリアFでは、ハマボウフウが色づき始めていたが、個体によっては、まだ白いものやサイズが小さいものもあり、生育にばらつきがある（Fig.7）。エリアGの汀線沿いにオカヒジキが群生している。現時点では、オカヒジキはこのエリアのみ見られる（Fig.8）。

（宮崎佳彦）